

モノづくり現場

4

エレクトロヒート技術最前線

嶋本ダイカスト(神戸市西区、島本一成社長、078・995・4415)は自動車やガス器具、通信機器などの部品をダイカストで製造する。主力のシートベルト部品は、月に400万~450万个を製造している。

アルミニウム合金を600度~700度Cで溶かしてから鑄型の中に流し込むダイカストの工程で、同社はこれまで溶解炉、保持炉

ルミニウム合金が固まる。炉の復旧には6~8時間程度かかり、大きなロスとなる。

これまで台風などの影響で炉が止まることが年に何度かあった。そのたびに社員の誰かが工場に急行し、火をつける作業をしなければならなかった。しかし電気保持炉を使うことで、こうした現場の負担は軽減した。

溶解炉、保持炉は無人となる休日も一定の温度を維持し続ける必要がある。休日は620度~640度C程度に設定しているが、温度が下がると材料のアルミニウム合金が固まる。炉の復旧には6~8時間程度かかり、大きなロスとなる。

嶋本ダイカスト

電気保持炉を導入

温度維持休日の負担軽減

メールで届く。島本洋二取締役製造部長は「とても気が楽になった」と実感を込める。また溶解炉、保持炉

ともこれまで酸化物の付着が気になっていたという。酸化物の付着が炉を変形させ、老朽化させる原因になるか



電気保持炉のメンテナンス作業

事業所概要

▷所在地=神戸市西区見津が丘2の3の6、078・995・4415▷主要生産品目=自動車部品▷年間エネルギー使用量=2462キロワット時(14年度、原油換算)▷年間CO2排出量=4079.5トン(14年度)

らだ。ところが「電気保持炉だと酸化物が付きにくい印象がある」(島本取締役製造部長)。炉の長寿命化につながる可能性がある」と期待する。

ランニングコストもガスより電気の方が安くなる。総合的に判断して「保持炉について 田光矢 (神戸編集委員・村

は電気の方が優れている(同)との結論は揺るがない。多品種のダイカスト製品を扱う同社には溶解炉、保持炉が13台ある。今後は更新時期に合わせて、電気保持炉を順次、導入する計画だ。